

令和3年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

<p>学校経営方針 (スクールミッション)</p>	<p>未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校</p>			<p>評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</p>		
<p>本年度の重点目標</p>	<p>資質・能力の育成 「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 豊かな人間関係の醸成 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 命の教育の推進 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」</p>			<p>評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する</p>		
	<p>学校の重点目標</p>	<p>各課の重点目標</p>	<p>評価指標(手段・ゴールイメージ)</p>	<p>1・2学期(※学校評議委員会資料として使います。) 学校関係者評価及び意見</p>		
<p>総務部 教務課</p>	<p>1 資質能力の育成</p>	<p>(1) 生徒の学力と関心意欲の向上 (2) 校務の整理とICT(校務支援システム、ミライム等)の有効活用</p>	<p>(1) ①学習特別指導対象者の減少 ②NFC評価の数値向上 (2) ①資料の電子化、ペーパーレス化を推進する。 ②データの整理・共有により、業務の効率化を図る。 ③早期着手により時間的余裕をもち、ミス等がないようチェック機能を高める。</p>	<p>3 (1) ①シラバスを活用した学習の構えづくりと意欲を喚起する指導の実践 ②基礎学力の定着と応用力の深化のための授業の工夫と課題の精選 ③バランスのとれた授業時数の確保 ④学習特別指導の効果的運用 (2) ①出欠統計や成績処理等を正確に行うための入力 of 徹底と校務支援システムの運用(図書情報課との連携) ②指導要録等、3年間を見据えた校務処理の在り方の検討と実践(進路指導課との連携)</p>	<p>3 (1) ①シラバスについては全教科・科目が提出し、効果的に活用できた。 ②●多くの先生方がICTを活用して授業の工夫・改善に努めておられるが、今後はさらに生徒一人一台端末に対する対応が必要となる。 ③○授業時数については校時変更を行うことでバランスをとることができた。 ④○全職員で共通認識をもちながら定期考査に向けての学習環境整備や雰囲気づくりを行うとともに個別指導により学習支援を行うなど、「学習特別指導対象者」を減らすことに努めた。 (2) ①②●ミライム活用により、徐々にペーパーレス化、情報の一元化は進んでいるが、情報の整理が課題である。また、図書情報課との連携により校務支援システムの効率的運用ができてきているが、業務分担当の再確認が必要である。</p>	<p>3.2 ・学校の教育目標、生徒のニーズや実態等をふまえ、具体的な課題に向かいながら、様々な取り組みを地道に進められているように思います。</p>
	<p>2 豊かな人間性の醸成</p>	<p>(1) 進路実現の視点に立ったカリキュラムの効果的運用と検証 (2) 学校行事予定の検討と行事の円滑な運営</p>	<p>(1) ①令和4年度入学生の教育課程表完成 ②進路実績向上へとつなげる。 (2) ①行事等の計画立案および周知徹底の流れ(各分掌→運営委員会→職員会議・職員全体)をスムーズにする。 ②参加者が行事の意義・目的等を認識して参加できるようにする。</p>	<p>3 (1) ①カリキュラムの運用の充実と検証 ②進路実現のために効果的かつ効率的な学級編成・授業クラス編成の検討・導入 ③教育課程説明会の実施によるカリキュラムの周知徹底と教育課程登録の的確な指導 ④新学習指導要領実施に向けた教育課程・指導要録等の研究・編成 (2) ①月行事予定の早期の作成と配付 ②他の分掌との連携・協力による学校行事の運営</p>	<p>3 (1) ①令和4年度入学生の教育課程単位数表については完成した。また、新学習指導要領に関する評価の在り方について、研修会を開き、共通認識を持つことができた。 ③○教育課程説明会は、新しい形態(生徒向けには対面、保護者向けにはオンデマンド)での説明を行った。 ④●次年度に向けて、学習評価基準・年間指導計画(シラバス)を作成した。運用において微調整が必要と思われる。 (2) ①②○行事等の計画立案および周知徹底の流れについては、関係各部署との連携によりほとんどがスムーズに行うことができた。</p>	<p>3.2 ・教育課程について、職員の共通理解に加えて、保護者・生徒への周知徹底をお願いしたい。 ・新学習指導要領の基盤となる考え方(認知能力と非認知能力のバランスのとれた育成)に沿う形で、進路指導と学校行事という両面でのバランスの良い指導体制を構築するための工夫や努力が為されている</p>
	<p>2 豊かな人間性の醸成</p>	<p>(1) オープンスクール、学校説明会等の充実。</p>	<p>(1) ①運営に関わった生徒の満足度が向上する。</p>	<p>(1) ①運営を生徒主体にすることで、運営に関わる生徒が多様性を尊重し、感性や創造力を伸ばし、西高プライドを醸成する場面とする。</p>	<p>3 (1) ①○第1回(中学)担当した生徒は自分たちで工夫しながら質の高い活動を行った。 (高校)主体的に活動し、参加者の満足度を高めることができた。 第2回(中学)コロナ禍の対応でYouTube配信となったことで、新たな動画作成のきっかけとなった。 (高校)高校1年生にとって、次年度につながる活動となった。 ☆生徒による広報委員会設置について協議し、提案した。</p>	<p>3.4 ・生徒主体で取り組んでいる点は素晴らしい。 ・学校PR動画やオープンスクールが生徒の目線で実施されている。世代間の感性の違いを押しさえつけず、伸ばしていただいている。 ・生徒が良い方向で主体性を発揮できるような工夫が為されているように思います。</p>
<p>総務部 広報課</p>	<p>3 命の教育の推進</p>	<p>(1) オープンスクール、学校説明会等の充実 (2) 本校の魅力の発信</p>	<p>(1) ①参加した児童・生徒・保護者の満足度が向上する。 (2) ①業者を活用し、魅力あふれる資料を作成できたか。 ②鮮度の高い情報、安全・安心な学校生活のイメージを発信できたか。 ③本校の実績を発信するとともに、受験生の動向やニーズをリサーチできたか。</p>	<p>3 (1) ①生徒主体の運営を見せることで、生き生きとした本校生徒の姿を発信する。 (2) ①学校紹介資料(パンフレット、ポスター、広報誌など)の作成 ②ホームページ、Facebook、YouTubeによる最新情報発信 ③小学校・中学校・学習塾との連携</p>	<p>3 (1) ①○(中学)生徒主体の運営ができ、来校者から多くの賛辞を得た。 (高校)第1回では普通科80%、理数科90%、第2回は普通科理数科合同で実施し、全体で80%が「大変よかった」と回答。 (2) ①○構成を再検討し、より情報の質を高めることができた。 ○県の事業による学校紹介動画作成・イベント参加に取り組んだ。 ☆コンテストにおいて銀賞を受賞した。 ②●情報発信が遅延気味である。 ○画像系の保存場所を新設した。 ③○本校主催説明会のアンケートでは、ほとんどが満足の回答であった。</p>	<p>3.4 ・YouTube動画は、非常に完成度が高く、内容も斬新であった。 ・西高・西附中の良さをアピールする機会が増えて感じます。 ・(県の事業の広報については)アナウンスに工夫が必要である。</p>

	学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期(※学校評議委員会資料として使います。)		学校関係者評価及び意見	
					評価	成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)	評価	コメント
生徒支援部 生徒指導課	1 資質能力の育成 Revolution ～西校プライドと自治の醸成～	(1)生徒会や委員会活動を通じて、主体性や自己管理能力を高める。 (2)校則や容儀指導等のあり方を検討し、生徒の自己管理能力を育成する。	(1)(2) ①生徒総会や委員会活動で生徒が主体的に議論し、多様な考えを理解した上で、集団としての考えを形成しようとしている。 ②携帯・スマホ持ち込み規定違反者数の減少	(1) ①学校のあり方について生徒会等で議論し、生徒の自治意識を高める。 ②スマホの自己管理能力を醸成する。 (2) ①校則等を見直すとともに、生徒にも議論させ、西高プライドを醸成する。 ②容儀指導を撤廃できる体制を作る。 ③新しい時代に対応した制服の改訂を検討する。(50周年記念事業との連携)	4	(1)①②① ○校則見直しについて高校では生徒会総務、風紀委員会、クラス討議を行い、中学では全体討論会を行う中で自治意識の高揚を図ることができた。新案について代表委員会および全校生徒からの書面議決により賛成多数で可決されたのを受けて新年度から施行していく。R4学校HPにも掲載する。今後も、継続して生徒自身で割り守る校則になるよう支援していきたい。 (1)②②② ●自己管理の緩い実態がある。上記内容と併せて時間をかけて考えさせていく必要がある。 (2) ③○女子スラックス(夏・冬用)導入。 ○新制服メーカー決定。	3.4	・委員会活動の活性化は、生徒の主体性を育てる意味でも非常に良い。 ・女子生徒のスラックスは非常に好評である。LGBTも含めて、多様性に対応できるのが理想だと思います。 ・年度途中での決断は素晴らしい。 ・この時代に頭髪検査など、もうなくても良いと思う。スマホの持ち込み後のトラブルがなかったか少し気になりました。
	2 豊かな人間性の醸成	(1)感性や創造力を伸ばす学校行事や特別活動等を推進する。 (2)部活動やボランティア活動等を推進する。	(1) ①生徒の学校満足度評価結果の向上 (2) ①部活動加入率の増加と積極的なボランティア活動参加者数の増加	(1) ①朝陽祭をはじめとする各種学校行事のあり方の検討する。 (2) ①6年間を見据えた中・高連携を実践する。 ②部顧問の適正配置と部活動指導員等の積極的導入を行い負担軽減のための様々な制度を検討する。 ③部活動派遣規定を見直す。	3	(1) ①○コロナ禍の現状で「どうすればできるか」を模索し、朝陽祭の分散開催や図書情報課の協力を得てICTを活用した各種行事を企画・運営することができた。今後更なる改善を図る。 (2) ①○中学生の活躍の場を広げ、中高6年間を見据えた学校行事・部活動の在り方を少しずつ改訂中。 ②△部顧問の適正配置と部活動指導員等の導入を行えたが、それが負担軽減に繋がったか検証する必要がある。 ③○部活動派遣規定のさらなる見直しを行い実態に即した規定に改訂した。R4から施行する。	3.0	・部活動の加入率(高校86%、中学82%)が高い。 ・学校生活満足度の調査は素晴らしい取組である。 ・主体性や自己管理能力を視点において指導方針は、4月から施行される新民法の18歳成人年齢というあらたな状況を見据えたものとしても、時宜を得たものだと思います。
生徒支援部 生徒指導課	3 命の教育の推進	(1)生命・人権・多様性を尊重し、自他肯定感を育成する。 (2)道徳教育を推進し、いじめの未然防止を推進する。 (3)新型コロナウイルス対応や防災教育等の様々な危機管理を徹底する。 (4)交通安全指導を徹底し、マナー意識を向上させる。	(1) ①誰も見ていなくても自分や他者の命を守る行動をとる生徒の増加 (2) ①いじめアンケート結果の改善 (3) ①危機管理意識の徹底 (4) ①交通ルール・マナー違反に関する苦情の減少	(1) ①教師自身が、高い生命・人権・多様性尊重の意識を持った言動を徹底し、範を示す。 ②生命尊重に関する様々な講話、講演会等を実施する。 (2) ①LHRの人権教育を充実させ、いじめアンケートを定期的実施する。 (3) ①新型コロナウイルス対応体制の充実と各種講演会を実施する。 (4) ①交通マナーに関する様々な指導やPTAと連携した交通指導を実施する。	2	(1) ②○NFC生徒自己評価の結果、自他肯定感の大きな向上が見られた。 (2) ①△いじめアンケート実施と結果に対する生徒のケア、統一LHRライフスキル、弁護士による「出前授業」などにより道徳心の高揚に努めることができた。しかし、その成果についてはまだ分からないのが正直なところである。 (4) ①△新しいスタイルの独自性ある交通安全教室の実施、臨時学年集会、臨時全校放送など機会ある度に交通安全指導とマナー意識の高揚を図った。苦情の電話件数は減少傾向にあるが、複数件の自転車交通事故も発生し、めざましい効果があったとは言えない。誰が見ていなくても正しい行動ができるよう、とにかく粘り強く伝えていくしか方法がない。	2.2	・自転車マナーについて、警察に苦情の電話が時々ありますので、引き続き指導をお願いしたい。 ・自他肯定感の具体的な評価内容が分かりづらいが、ぜひアンケートを継続してほしい。 ・いじめや交通マナーについて、西高は少ないと聞いていますが、表に出ない部分があると怖い。
生徒支援部 教育相談課	1 資質能力の育成	(1)様々な価値観を持つ生徒への理解に努め、なかなか集団に適応できずにいる生徒への支援体制を充実させる。	(1) ① 様々な価値観を持つ生徒への理解に努め、なかなか集団に適応できずにいる生徒への支援活動を実施する。	(1) ①悩みを持つ生徒や、なかなか集団に適応できずにいる生徒へ積極的に関わる。	3	(1) ①△相談室を利用した生徒の中には、教室で授業を受けられるまで改善できた生徒もいたが、相談室登校もできなかった生徒に関しては、進路変更を選択するに至った。	3.0	・不登校傾向の生徒、休学・退学が予想される生徒を一人でも減らすことは学校の良い面と捉えています。 ・進路変更がマイナスの選択にならないように支援してほしい。
	2 豊かな人間性の醸成	(1)様々な価値観を持つ生徒が他者と触れ合うことで、人間関係構築力の育成したり、社会適応力の向上を目指すための、教育相談体制を充実させる。	(1) ①様々な価値観を持つ他者と触れ合う体験活動を実施する。	(1) ①様々な価値観を持つ他者と触れ合い、日常生活の中で話し方、聴き方等のコミュニケーションスキルを身につける。 ②スクールカウンセラーや外部機関の職員と連携を図り、様々な価値観を持つ他者を尊重する心を育成する。	2	(1) ①●生徒間でコミュニケーションに関わるトラブルが増えている状況から、日常生活でのスキル向上のためのさらなる個別支援の在り方を検討する必要がある。そのため次年度からコミュニケーションスキルアップを目指し、ピアサポートトレーニングを実施する予定。 ②○スクールカウンセラーやエリアコーディネーターと連携を密に取り、生徒理解に努めた。	2.4	・話せる・相談できる職員を作り上げる動きは素晴らしい。 ・トラブルがあるのなら、隠すことなく言いやすい雰囲気作りをすることが大切である。 ・ネットや通信などでの音声や文字のみでのコミュニケーションは、その情報量の少なさから意思疎通の行き違いが生じやすく、トラブルが多くなる傾向にあると言われます。
	3 命の教育の推進	(1) 生命・人権・多様性を尊重し、自他肯定感を育成する。 (2) 人権教育、性教育等、命や健康を大切に教育を推進する。 (3) 道徳教育を推進し、いじめの未然に防止を推進する。 (4) 生徒支援・教育相談体制を充実させ、通級指導のあり方を研究する。	(1) ①教師自身が、高い生命・人権・多様性尊重の意識を持った言動を徹底し、範を示す。 (2) ①生命尊重に関する様々な講話、講演会等を実施する。 (3) ①LHRの人権教育を充実させ、いじめアンケートを定期的実施する。 (4) ①支援が必要な生徒の理解に関する研修や通級制度に係る研修等を実施する。	(1) ①悩みを持った生徒たちの自他肯定感の醸成を目指し、日常生活の中で話し方、聴き方等のコミュニケーションスキルを身につける。 (2) ①LHRの中でライフスキルの授業を年2回実施し、人権への意識やコミュニケーションスキルの向上に努める。 (3) ①学年会へ参加、教育相談委員会を週1回実施、教育相談希望調査や学校生活アンケートを学期1回実施し、早期に生徒の情報共有を図り、いじめの未然防止に努める。 (4) ①支援が必要な生徒の理解に関する研修や通級制度に係る研修等を実施する。	3	(2) ①○ライフスキル(LHR)の授業を実施し、人権意識やコミュニケーションスキルの向上、ネットやSNSトラブルに関する注意喚起に努めた。 (3) ①○各学期1回いじめ・不登校の未然防止のためのアンケートを実施し、学年団と情報を共有できた。 (4) ①○●支援が必要な生徒や通級制度に対して、今後多くの職員から理解を得る必要がある。	3.0	・ADHDなどの発達障がい等の特性のある生徒への支援を充実させてほしい。

	学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期(※学校評議委員会資料として使います。)		学校関係者評価及び意見	
					評価	成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)	評価	コメント
生徒支援部 環境保健課	1 資質能力の育成	(1)命を守るための自己管理能力、行動力を育てるための保健教育の充実 (2)安全、防災教育の充実と対策の強化	(1)自己管理能力の育成を図るために必要な知識やスキルを習得する。 (2)自らの健康状態に関心を持ち感染症対策を確実に行う。 (2)①危機管理意識を高め、自ら主体的に行動できる。 ②安全点検を実施し使用状況の把握をする。	(1)いのちを大切に教育(性に関する学習など)、健康講話、薬物乱用防止教室等を実施する。 ②保健の授業で救急救命・AED使用についての指導を行う。 ③保健委員会活動の活性化を図り、学校保健活動を推進する。 (2)①防災学習・避難訓練を実施する。 ②年3回(6月・10月・1月)耕心強化週間で安全点検を実施する。	3	(1)①性に関する学習、健康講話は、コロナ感染症対策を行いながら先生方の協力のおかげでスムーズに行うことが出来た。 ③〇生徒保健委員会活動に新型コロナウイルス感染症対策についての内容を取り入れ、積極的に啓発を行った。3学期は各学級の対策チェックを行い、より徹底を図ることができた。 (2)①〇●避難訓練を予告した上で、新たな避難経路を確認して行い、その後リモートを使って災害時における危機管理意識の向上を図った。職員から出た意見をもとに次年度に向けて改善を図りたい。 ②〇安全点検により校内の危険箇所を把握し、可能な修理・修繕について事務部と連携しながら対応した。	3.4	・避難経路の再検討・変更は、非常に良い取組です。
	2 豊かな人間性の醸成	(1)無言耕心の徹底と美化意識・衛生意識の向上	(1)仲間とともに協力し美化活動を行い公共物を大切に。 ②ゴミを拾い、身の回りの整理整頓ができる。 ③自ら進んで耕心を行う。	(1)美化委員会活動の活性化を図り、学校内外の美化活動を推進する。 ②耕心オリエンテーションを充実させ、自ら清掃や整理整頓を無言で行う生徒を育成する。 ③耕心強化週間を設定し、職員生徒共に美化意識の向上を図る。	3	(1)①〇●美化委員による耕心時の見回り点検、美化便りの発行等により、生徒の美化活動への意識付けを図った。また、ゴミの出し方にまだ課題があったため、ゴミの分別についての資料を各クラスに掲示した。 ②〇耕心オリエンテーションのトイレ清掃ビデオの改訂版を美化委員会が作成した。 ③〇●耕心区域に対する職員の数が不足している実態があるため、来年度に向けて再度検討する。	2.2	・職員がいるか、いないかで掃除の仕方が変わるのなら、職員数の不足が問題かもしれない。 ・誰も見ていなくてもやれる生徒が育ってほしいという意識付けをするしかない。 ・学校での自分たちの生活環境の整備を自分たちで考えて自分たちで行うという教育活動という位置づけを、生徒と一緒に考えてみてはいかがでしょうか。
	3 命の教育の推進	(1)命を守るための自己管理能力、行動力を育てるための保健教育の充実 (2)安全、防災教育の充実と対策の強化	(1)自己管理能力の育成を図るために必要な知識やスキルを習得する。 (2)登下校時の緊急避難場所を理解する。	(1)いのちを大切に教育(性に関する学習など)、健康講話、薬物乱用防止教室等を実施する。 ②生徒の心身両面のさまざまな訴えに積極的傾聴を行い学校生活を支援する。 ③担任、教育相談課、家庭と連携を図る。 (2)①登下校時の緊急避難場所調査を行う。	(1)①〇●いのちの教育週間に合わせて、学年の発達段階に応じた講演会や性に関する学習を実施した。薬物乱用防止教室(高2)については、新型コロナウイルスの感染状況により中止(中3については予定通り実施)としたため、次年度は早い時期(7月予定)に2・3年生を対象として実施する予定である。それぞれの内容について、生徒や職員の感想や意見を参考に直しを図り、改善につなげていきたい。 ②③〇保健室に入室する生徒の様子を積極的に担任等と共有し、教育相談課等と連携を図りながら対応することができた。 (2)①〇登下校時の緊急避難場所調査の形式を見直し、家庭で災害時の行動について話をしてもらうことができた。	3	3.0	・問題意識を持って取り組んだことが、生徒の印象に残り、自主避難につながると思う。
進路支援部 進路指導課	1 資質能力の育成	(1)進路意識の啓発を図り、生徒の能力や希望に応じた進路目標を設定させる。 (2)進路目標の実現に向けて基礎学力の定着に努め、国公立大学進学を保障する学力を習得させる。 (3)より高い進路目標の実現に向けて、各学年と連携して一貫性・継続性のある指導ができる体制・システムを構築する。	(1)①多様な学びを通した進路意識の高揚と、生徒の生活状況や学習状況に応じたアドバイスや激励 (2)①基礎学力の定着と国公立大学に合格できる学力の強化(国公立大300名合格への挑戦) (3)①超難関大、難関大、医学部医学科を目指す生徒の増加と指導態勢の強化(東大2けた、九大50名合格への挑戦)	(1)①進路講演会、大学等の出張講座等の実施 ②年間5回の生徒面談(担任:2回、教科担任:3回)の実施 (2)①平常講座や土曜講座の計画的な実施 ②「課題テスト」・「西高・西附チャレンジテスト」の実施 ③学力検討会・進路検討会の効果的な運用 (3)①超難関大、難関大、医学部医学科を目指す生徒の学習指導充実のための教科指導研究会の実施 ②全職員がいち早く生徒の学習現況を把握できるような成績データの作成と共有	3	(1)①〇第1回進路講演会(高3生)、第2回進路講演会(高1,2生)、私立大学説明会(高3生)九大高校訪問事業(希望者)を実施した。第3回進路講演会(高1,2生)、医療講演会(医学科進学希望者)を実施予定である。 ②〇●朝課外時の面談については、学級担任面談1回、教科担任面談3回は実施できたが、最後の学級担任面談を実施することができなかった。 (2)①●朝課外は、年度初めの緊急事態宣言中は高1,2生は中止、高校総体期間中(9日間)は全学年中止、3学期も朝課外を一部中止としたため演習量の不足が心配される。土曜講座については、模試や学校行事、各大会と重なったり、コロナ感染症拡大の影響を受けたりして、継続的な実施が難しかった。 ②〇●第1回西チャレの高1,2生は中止となり、高3生は7/12,13で実施した。第1回課題テスト、第2回西チャレ(中3,高3生)、第3回西チャレ(高1,2生)、第2回課題テスト、第4回西チャレ(高1,2生)は予定通り実施。 ③〇高校1,2年の学力検討会を実施し、現状について分析・検討し、今後の取り組みについて確認することができた。高校3年も進路検討会、出願校検討会を予定通り実施することができた。 (3)①〇理科・理文クラスの先生方を中心に実施していただき、志望生徒の成績動向と指導の方向性を確認することができた。 ②〇各学年の成績動向を提示することができた。可能な限り早く情報提供を行っていきたい。	3.2	・講演会・講座の実施は、将来の目標を決めきれない生徒には、自分を見つめ直すいい機会になっているのではないのでしょうか。卒業生にも豊富な人材がいるので、ぜひ継続してください。 ・コロナ禍の中で大変ですが、計画的によく取り組まれている。 ・進路講演会や大学等の出前講座などの実施を通じて、単に大学に進学するというだけでなく、大学入学後の学びなどについての目的意識を抱かせるような、重要な取り組みが為されていると思います。
	2 豊かな人間性の醸成	(1)生徒一人ひとりが「未知の我を求めて」主体的に自分の将来を考え、長期的な展望のある進路選択とその実現ができるよう、個々の生徒を支援し、社会に求められる人材を育成する。	(1)①多様な学びを知り、将来の進路発見と実現につながるような講座の実施 ②校外で実施される体験学習への参加者の増加 ③推薦入試(総合型・学校推薦型)に挑戦する生徒の育成と合格者の増加	(1)①学部・学科講座やYUME講座の実施 ②校外で行われる講演会や、看護体験などの諸活動の案内と積極的な参加の奨励 ③資格取得の推進やボランティア活動参加の奨励 ④Classiや紙媒体のポートフォリオを活用した推薦入試に対応できる生徒の掌握 ⑤全職員で行う小論文・面接・口頭試問等の指導の充実	3	(1)①〇YUME講座(7月、対面)は保護者や先生方の協力をいただき実施することができた。学部学科講座(9月、オンライン)、私大説明会(10月、オンライン)についても先生方のご協力のもと実施することができた。学部・学科講座では「きみろん」作成の参考になったという生徒のコメントが見られた。 ②〇実施されるセミナーや講演会の情報を提供し、多くの生徒が参加した。校内でも東大金曜講座を26回実施することができた。 ④〇●Classiは、アンケートや教材配付、自宅学習時間調査、講演会の実施要項配付などで活用した。活用方法については学年会などで研修会を実施し、積極的な利用を推進することが必要である。 ⑤〇全先生方の協力のもと、推薦入試の小論文・面接・口頭試問の指導を行っていただいた。	3.4	・YUME講座取組は、保護者と協力している点が素晴らしい。 ・行事や講演会は、コロナ禍でも積極的に実施できていると感じた。気づきを促すきっかけになるので、素晴らしい。

	学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期(※学校評議委員会資料として使います。)		学校関係者評価及び意見	
					評価	成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)	評価	コメント
進路支援部 理科文課	1 資質能力の育成	(1)豊かな感性と高い知的探究心の醸成 (2)高い学力の養成と進路志望の実現	(1) ①各種コンテスト、オリンピック、大学やSSH等のプログラムに複数名入賞する。 ②大学見学・入試研修会へ積極的に参加する。 ③医師体験等の講座へ自主的に参加する。 (2) ①1年次ハイレベル模試で偏差値60以上 ②2年次ハイレベル模試偏差値60以上 ③進研模試GTZのA2以下解消 ④東大京大の超難関大学への合格 ⑤国公立大学医学部医学科への合格 ⑥通常授業は難関大合格が可能なレベルを維持	(1) ①関係部署と連携し、生徒へのタイムリーな案内と参加を奨励する。 ②面談を積極的・定期的に行い、難関校や医学科への進学意欲を高める。 (2) ①模試毎のデータ分析を行い、迅速な共有とフィードバックを行う。 ②教科指導研修会など指導力向上のための研修を充実させる。	3	(1) ①○縦のネットワークを構築できた。依頼文書、および理数科メールアドレスの発行でさらに充実が期待できる。卒業生からのビデオレター(現在3本)をオープンスクール、理数科生集会等で活用、医学部受験生に対するメンター活動(県内医学部生)、東大京大受験生向け先輩からのアドバイス掲載のしおり作成を行った。 ①●コロナ禍における行事の中止や変更に対し、学校独自のさらなる工夫が必要。生徒を中心に考えると、研究部との連携をさらに深めたい。 ②○年度2回の理数科理文講演会を実施し、生徒から高評価、将来の進路・研究への動機付けとなった。研究職に就くOBの人材活用として、第2回講演者(京都大学准教授、附属中向け理数科オリエンテーションで筑波大学大学院システム情報工学研究科在学(JSPS特別研究員)のビデオレターを紹介。今後もキャリアモデルとして本校卒業生の積極的な活用を行いたい。 ②●従来の行事で形成されていた、学校と保護者の信頼関係が脆弱化しており、面談での声かけ、学校と保護者の連携の在り方等について、指導/情報共有が急務。 (2) ①②○理数科理文クラス教科担任会の実施。豊富な蓄積データ、昨年度の担任に加え各教科指導者の話を活かし、今年度の生徒の現状とこれからの指導戦略を共有できた。	3.0	・コンテスト・各オリンピック等の実績は、西高・西附中への進学を目指すきっかけの一つにもなっています。理数科生のみならず、普通科生にも広げていってもらいたい動きです。 ・ICUの学長をはじめとする素晴らしい講師の方々を呼んで、多様な講演会が実施されている点が素晴らしい。 ・日本学生科学賞を普通科の生徒が受賞したことを考えると、理数科・理文科ばかりに目を向ける必要はないと感じた。
	2 豊かな人間性の醸成	(1)規範意識の醸成と生きる力の育成	(1) ①教師主導でなく、生徒が主体性をもって活動 ②生徒会や学校行事へ積極的に参加 ③耕耘や日々の生活で自ら気づき行動	(1) ①生徒が自ら考え、行動できるよう、自立心を育む。 ② 耕耘・行事への率先した取り組みを奨励 ③ 部活動、生徒会活動への積極的参加を奨励 ④ 生徒主体の理数科生集会	2	(1) ①②●核となる生徒の育成はおおむね良好だが、全員への波及の部分は改善の余地あり。自立までには好機を逃さず、丁寧な指導を心がける必要性あり。現状分析に基づく計画の立て方を丁寧に指導し、自走へと育成する指導の共有が必要である。 ②③●「市民的エリート」育成に向けた、広い教養を身につける姿勢の欠如。日常から高い目標を掲げたい。 ④○理数科・理文クラスとも生徒集会を実施し、縦の関係を構築できた。	2.8	・先輩を上手く活用している印象を感じた。 ・学外の多様なコンテスト等を活用し、身につけた資質・能力を活かすような場の提供がうまく設定されていると思います。
	3 命の教育の推進	(1)多様性を認め、自他肯定感の高揚	(1) ①全生徒が自分の長所・強みを自信を持って答えられる。	(1) ①授業やHRを通じて多角的な視点を養成する。 ②個別に寄り添う姿勢で面談を行う。	3	(1) ①○教科担任・該当学年団・部顧問との連携、情報共有により、成績だけではなく長所の発見に努めた。 ②○保健室・相談室との連携、情報の共有で、個別対応がはかれた。 ●附属中学校との連携、情報の共有の機会を積極的にもちたい。双方向のやりとりが必要である。	2.6	・現状で十分だと思うが、情報の共有はしっかり行ってもらいたい。
進路支援部 渉外厚生課	1 資質能力の育成	(1)PTA会員(保護者・職員)が共に研修を深めるための活動の推進	(1) ①会員の研修の場を提供し、その企画・運営を支援する。 ②研修の内容を、生徒に還元できるものをめざす。	(1) ①研修委員会(仮称)の研修内容の設定についての意見交換を行い、興味関心が高いものを選択していく。 ②生徒と話題を共有できるような研修の場を設定するとともに、会員相互が楽しくPTA活動に参画できるよう、研修の運営を支えていく。	3	(1) ①②○母親委員長の西山さんを中心として、担当職員と各クラスの母親委員の方々との協議を基に、全3回の研修の場を設定した。第1回母親委員会講演会演題「子どもとの接し方について～脳科学の観点から～」blain-Mental Laboratory主宰:足立明彦先生。 ①②○第2回母親委員会講演会演題「人を育てる～今、子育てにとって一番大切なこと～」熊本県立大学名誉教授:石橋敏郎先生。 ①②○第3回母親委員会講演会「第一志望合格のための子育てメソッド」講師:45期生の保護者(5名:竹下妙子様、長友 真琴様、前田 恵理様、大内田 美由紀様、年増 弘子様)。第2回母親委員会は、元々対面式の講演会を予定していたが、コロナ対策のためリモート講演会とした。第3回母親委員会は、計画当初よりリモート講演会として進めていただいた。実施後のアンケートは好評であった。 ②昨年度に引き続き、今年度も県内外の研修会が新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止が相次いだ。九州高P連大会(鹿児島)・全国高P連大会(島根)・県高P連秋季研究大会(延岡)・県中地区研修会等	3.0	・PTA活動の一環として、素晴らしい取組を実践されている。 ・PTAに関しては、交流がなく進みにくいようである。その中でも、対応できることをやれているだけで十分だと思います。
	2 豊かな人間性の醸成	(1)保護者の理解・協力を得られるよう情報を発信し、連携を深めていく (2)50周年記念行事の開催準備の推進	(1) ① 学年PTA・学級PTA等の運営に協力し、その充実を図る。 ②PTA広報委員会によるPTA新聞の誌面充実を図る。 ③携帯メール通信を活用し、多くの場面で適宜、情報を発信していく。 (2) ①同窓会や各部署との連携を図りながら、記念行事開催に向けての各種会議の運営に取り組む。	(1) ①各学年PTA・中学部会担当職員を窓口として、情報共有を徹底しながら各種行事を運営する。 ②コロナ禍における各種行事の中止や広報活動が制限される可能性があることを予測して、事前に渉外課職員で取材を行ったり、広く職員に写真の提供を呼びかけていく。 ③携帯メール通信への登録者数の増加を図るための呼び掛を丁寧に行う。 (2) ①50周年行事に向けてのPTA保護者組織を立ち上げる。	3	(1) ①●●高校新入生保護者の各種専門委員、学級委員選出支援については、学年PTAの理事の方々に中心となっていただき、委員選出を進めていただくことができた。学年PTA、中学校部会の運営については、コロナ禍における行事の中止が重なり、活動の機会が減っている状態にある。高校の学年会計については、事前の確認と調整が不足したため、支出内容について学年毎に解釈の相違が生じ、混乱を招いてしまった。今後、丁寧な調整が必要となる。 ②○●1学期号のPTA新聞は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、広報委員会を運営することができず、発行を見送った。2学期号は、県内の新型コロナウイルス感染者数減少が続く中、取材や編集会議を感染防止対策を行って行って以来に近い形で実施できる事となり、広報委員の方々の協力と理解を得ながら発行に向けて計画を進める事ができた。先生方からも写真や原稿の提供をいただき、生徒の活躍の様子、職員紹介、PTA活動の報告等について発信することができそうである。3学期号は、2月28日付で発行ができた。写真や氏名に関する個人情報取り扱いについての危機管理については、今後も十分に注意して取り組む必要がある。 ③○PTA携帯メール通信システムへの登録者数は1546名、登録家庭戸数は1295戸、未登録戸数は6戸の状況である(R4.2.4現在)。登録区分の見直しを行うことにより、情報を効果的に送信することが可能となった。 (2) ①○●●現在、PTA会長の清閑さんに窓口となっていただき、50周年行事に向けてのPTA保護者組織づくりに取り組んでいただいている途中段階にある。	3.0	・保護者に対する学びの場を提供し、生徒の教育に学校教員と共に課題意識や教育の方向性を一緒に考えたり共通理解を図っていったりするきっかけとなる環境作りになっているのではないかと思います。
	3 命の教育の推進	(1)生徒が学校生活全般において安心・安全に過ごすことにつながるPTA活動の推進	(1) ①PTAによる登下校時の交通見守り活動を行い、交通安全に関する意識の高揚に努める。 ②防災・いじめ防止・スマホ・交通安全等、命の教育に関する内容をテーマとした研修の場を設定する。	(1) ①交通見守り活動の意義・時期設定・時間帯留意点等についての意見交換を行い、適切なタイミングと共通理解の下に活動を実施する。 ②命の教育に関する内容を精選し、テーマにふさわしい企画を考え、講師の選出を行う。	2	(1) ①○●●交通見守り活動の時期は、令和3年9月、1月、令和4年4月に設定した。保護者車両による送迎の様子や生徒の登下校の交通マナーの状況を見守り活動を通して検証し、生徒の事故防止につながる啓発活動を行うことを目的とした。実施にあたっては、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、時期や見守り箇所を調整しながら活動を行っていただいた。高校の見守り地点は、①学習塾駅前駐車場、②響駐車場③小野小児科スクランブル交差点、④東寿司交差点、⑤美容室パウダー交差点の4地点。高校3学年は、9月の実施予定を10月実施に調整(11日、12日、14日)して、3地点での見守り活動を行っていただいた。高校2学年は、1月19日、24日、28日の3日間の日程で3地点での見守り活動の計画を立てていただいたが、新型コロナウイルス感染拡大状況により、24日と28日の実施を延期とした。高校1学年は、令和4年4月12日～22日の期間内で実施予定。中学校の見守り地点は、①学習塾駅前駐車場、②響駐車場③小野小児科スクランブル交差点、④東寿司交差点の3地点。中学校3学年は、9月21日、22日、24日の3日間の日程で3地点での見守り活動の計画を立てていただいたが、新型コロナウイルス感染拡大状況により中止となった。中学校2学年は、1月11日、12日、13日、14日に3地点での見守り活動を行っていただいた。中学校1学年は、令和4年4月12日～15日の期間内で実施予定。 ②○●●役員間において、命の教育に関わる内容についての情報交換を行い、講師の選出や実施形態についての協議を進めていたが、実現に至らず。代わって、西高校生の交通マナーや保護者による車送迎の際の駐車場利用状況の問題への対応として、7月21日に、生徒会とPTAによる「交通安全ミーティング」を実施して、西高校・西附中の交通マナーについての意見交換を行い、協同で保護者と生徒への「命を守るための交通安全啓発活動」を行った。PTAからは、保護者への交通安全に関するお願い文書を出し、生徒会は、「交通安全に関するお願い」として生徒への啓発活動に取り組んだ。	2.4	・自宅と職場に近いこともあり、先生方が交通指導をされている姿をよく見ます。スマホのながら運転も見かけないので、啓発が上手くいっていると思います。 ・先生方、交通見守り活動に従事していただき、ご苦労様です。 ・送迎のルールを守らない親は恐らく一部で、降ろしてもらおう生徒の意識を変えらる必要がある。

	学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期(※学校評議委員会資料として使います。)		学校関係者評価及び意見	
					評価	成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)	評価	コメント
研究部SSH推進課	1 資質能力の育成	(1)SSH事業を推進する全校体制を構築する。 (2)STEM教育を重視することで、批判的思考力などの「6つの力」を高め、それらをルーブリック評価できるよう検討する。 (3)主体的に探究活動に取り組めるよう、本校独自のカリキュラムを工夫し、プログラム開発を進める。 (4)MSECフォーラムとの連携を進めることで各校との情報交換を行い、本校SSH事業の成果を校外に発信する。	(1) ①部・課や学年にSSH事業への連携が広がりを見せている。 (2) ①批判的思考力などの「6つの力」に関するルーブリックを作成し、実際の評価に資することができている。 (3) ①探究活動の時間と質を保障する独自のカリキュラム編成ができています。また、高度な探究テーマにも耐えうる設備が充実し、高い水準の実験技術等が身につく教育プログラムが開発できている。 (4) ①MSECフォーラムで本校のSSH事業の優れた部分を発信し、研究開発の普及を図ることができる。	(1) ①組織横断的に編成されたSSH推進委員会を通じて、SSHのプログラムを遂行し、部・課間の連携を深める。 (2) ①部内で定義した「6つの力」が身についたかをルーブリックで評価し、その値から生徒変容をみる。 (3) ①探究に関する教育課程を見直し、特に理数科で高度な探究的教育プログラム「きみろんExpt.」を提供する。 (4) ①県内高等学校と本校の取組みとを比較検討し、MSEC幹事校として自校の取組を積極的に発信する。	3	(1) ①複数の校務分掌が、SSH関連業務で連携し、全校体制の構築が進んだ。 (2) ①先生方の御協力でポスターセッションを実施した。探究成果物の評価ルーブリックを作成、iPadを用いた評価を試行した。特に2学年の中間発表会では、自己評価集計まで実施できた。 ●事業を概括するルーブリックは検討中である。 (3) ①ポスターセッションの日程前倒しなど、教育プログラムのスケジュールを変更する予定である。 ○2,3年生のきみろんExpt.で生徒の動きが活発化、担当者の介入が有効に働いている。 ○課題発見にいたる模擬探究のプログラム作成に着手し、次年度に向けた準備を進めている。 ●仮説設定・検証過程での、資質・能力育成プログラムは未完成。 ○STEAMジュニア発表会を実施できた。生徒の取組みも充実している。 (4) ①OSSHに関するHPを公開するなど、積極的な成果発信ができるようになった。県外から2校の学校訪問があり、互いの情報交流を行うことができた。	2.6	・生徒の発表に向けた支援がとて大変だと感じました。 ・創造力と想像力の育成が課題として明らかになっている。この改善を図ることが、今後の鍵と言える。 ・外部から見ると、よく成果を上げているように感じますが、内部のプログラムについては、学校評価に合わせます。 ・学校の評価が低めなのは、探求の資質・能力育成のプログラムができていないことや、評価のためのルーブリックが未完成なことが大きな理由でしょうか。知識・技能の育成や評価のプログラム作成とは異なり、難しい点を色々と含んでいます。先行事例の研究もされていると思いますので、それらを参考に西校版を考えていければ良いのではないかと思います。
	2 豊かな人間性の醸成	(1)Art(感性、文化・芸術、自然美、美意識)を重視し、質の高い体験活動を提供する。 (2)きみろん15の実践を通じて第1学年からキャリアに対する意識を高める。 (3)科学系部活動や科学の甲子園などへの参加を推進し、協働的思考力を高める。 (4)各種科学系オリンピック等の参加を推奨し、自ら高い目標に主体的に向かう心を養う。	(1) ①附属中学校・高等学校のいずれでも自然美を感じ取れる観察・実験・巡検等の機会を増やしている。 (2) ①きみろん15でキャリアについて考える資料が充実し、生徒が自分の15年後を想定した未来像を文章に表現できるようになる。 (3) ①科学系部活動の加入数、科学の甲子園への参加希望数が増え、その協働的思考活動を通じて、集団での自分の強みを見いだす機会を増やす。 (4) ①科学系オリンピック等の参加者数が増えている。	(1) ①STEAMジュニアからきみろんExpt.まで観察・実験・巡検等の機会を増やす。 (2) ①きみろん15で配付する進路資料を読む時間を保障し、指導にあたっては自分の将来像を思い描いた段階で論文執筆に入るよう留意する。 (3)・(4) ①科学系部活動、科学の甲子園や科学系オリンピックへの参加がもつ意義や、それら活動が自分の将来をより充実させる契機となることを積極的に発信する。	3	(1) ①STEAMジュニアで野外観察を実施した。 ○附属中3生も高3のポスターセッションを参観し、3年後の姿を思い描くことができた。 ○高校1年での模擬探究プログラムを作成し、次年度より探究のイメージを与える試みを始めた。 (2) ①きみろん15において生徒が自らの将来像を思い描く資料提供ができ、副担任の御指導で順調に論文執筆できた。 (3)・(4) ①科学系部活動の部員が昨年の22名から今年は44名と2倍に増加している。化学部の生徒が日本学生科学賞で上位入賞し、国際大会出場を果たすなど、活動の成果が表れた。 ○県コンクールで課題研究作品が最優秀賞に選ばれるなど、複数の個人研究が校外で入賞した。 ○科学の甲子園県予選で11連覇を達成した。特に課題に協働的に取り組む部分で強さを発揮した。 ○生物オリンピックの参加者が大幅に増加した。	3.4	・生徒の表彰等の活躍が大変素晴らしい。また、理数科の生徒だけでなく、普通科の生徒の活躍も見られる点が良い。 ・今までに受賞したことのない部門を開拓してくださったのが素晴らしい。
	3 命の教育の推進	(1)多様な生徒に対応できるよう、教室環境のアクセシブル・デザインを進める。	(1) ①大きな音に敏感な生徒に、学習に集中できる静かな教室環境をより多く提供できている。	(1) ①廃棄するテニスボールを利用した防音椅子脚カバーを取り付ける活動を継続し、より静かな教室環境を整備する。	2	(1) ①●静かな教室環境の提供に尽力しているが、全教室の防音椅子脚カバー提供にはまだ時間がかかる。	2.2	・静かな環境ばかり整えなくても、多少の雑音にも対処できる生徒が育つ方が良いと思う。
研究部図書情報課	1 資質能力の育成	(1)「主体的・対話的な深い学び」や「探究的な学び」の充実を支える学校図書館の機能強化を図る。 (2)ICT環境の整備を進め、生徒の「学びの保障」と教員のICT活用教育力の向上を図る。 (3)学校教育の中核(メディアセンター)として、「読書センター」及び「学習・情報センター」の機能強化を図る。	(1) ①SSH事業の学習環境を整え、主体的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメントを推進する。 (2) ①ICT環境の整備を整えるとともに、生徒と職員の有効活用を推進する。 (3) ①探究活動の入り口としての図書館のあり方を研究し、読書活動やNIE等を推進する。	(1) ①各教科や「総合的な探究の時間」の授業計画と連動した図書館の特設コーナーや資料等の充実、STEAMラボの設置、未来授業研究会における授業研修を実施する。 (2) ①ICT教育推進委員会を中心に、校内のICTの環境整備や研修等を実施する。 (3) ①蔵書コレクション形成の充実化、ネットワーク情報資源の構築、リサーチに関わる周辺情報機器の整備、図書館の情報発信の充実を図る。	3	(1) ①各教科(247回)や総合・探究等(78回)との連携、特設コーナー設置(31回)。 ○教員(40台+54台)・生徒用iPad(高46台+350台、中240台)や周辺機器(キャビネット)の整備 ○STEAMラボ(ライブラリー)設置に向けた先進校視察(2校) ○未来授業研究会における授業研修会(3回)、学習評価の授業研修(2回)実施 ●STEAMラボ(ライブラリー)設置に向けた具体的な取組 (2) ①ICT機器活用のロードマップ・ガイドライン作成、探究活動における研修4回、自主研修8回 ○他課と連携したりリモート配信(33回)、その他リモート配信支援(50回以上) ●BYOD・CYODIに向けたGoogle work spaceによる環境整備、活用、支援 ●職員の情報スキルの向上、各部署におけるリモート配信担当の設置 (3) ①OSSH関連図書やデジタルコンテンツの充実、パスワードによる貸出管理、学校HPでの情報発信 ○図書館部会や中学校における研究発表・研究報告(2回) ●STEAM教育のカリキュラム・マネジメント	3.0	・コロナの影響もあって、ICT機器の活用が、ここ2年重要となっています。職員間の講習・情報共有をさらに発展させて、万事に対応できる状態を作っていたきたい。 ・視察を通して、他校の良い取組を吸収する姿勢は素晴らしい。 ・自分でどんどん調べられる環境が徐々に整っていつの間にか期待しています。 ・図書館を今の拠点、学びの拠点を転換していく方向性が良く表れているように思います。
	2 豊かな人間性の醸成	(1)生涯にわたって読書に親しむ態度の育成と情報モラルや社会参画の意識の向上を図る。	(1) ①図書委員会等の生徒の主体的・自治的な読書活動を通じて、主体性や自己管理能力を高める。	(1) ①生徒の主体的・自治的な読書活動(「朝の読書」「文化祭」「ピブリオバトル」等)を実施する。	3	(1) ①生徒図書委員会による自主活動(ピブリオバトル、文化祭の古本市、県立図書館フォーラムの企画・運営、おみくじ作り、デジタルサイネージによる案内) ●生徒実行委員会によるLHRを利用した読書啓発活動(ピブリオバトル、POPづくり)	3.0	
	3 命の教育の推進	(1)人権教育、性教育等、命や健康を大切に学習環境の充実を図る。	(1) ①生命尊重に関する様々な図書資料等を充実させると共に、生徒の「心の居場所」となる図書館づくりを進める。	(1) ①生命尊重に関する図書資料や特設コーナーを設置するとともに、「いつも開いている」「必ず誰かいる」図書館を運営する。	3	(1) ①教室に入りにくい生徒の対応、教育相談等における場の提供、学校司書・職員等の常駐 ●通級指導における学校図書館の活用・連携	3.0	
事務部	3 命の教育の推進	(1)効率的な予算の執行と、中高一体となった事務運営を行い、教育環境を整える。	(1) ①新型コロナウイルスや危機管理のため、外来者に対して、窓口での受付を徹底させる。 ②生徒が安心して学べるよう、施設設備の維持管理を適切に行う。	(1) ①受付での検温、来校証の携帯を徹底する。 ②教職員・生徒会の協力を得て、四半期毎に危険箇所点検を行い、不良箇所を早期に修繕する。	3	(1) ①自動検温機を設置し、外来者に対して検温漏れの無いようにした。また来校者に対しては、事前にアポイントをとってもらい校内の立ち入りを制限した。 ②●学校法面部分の草刈り、コンピュータ教室等の空調設置、トイレ自動化・洋式化工事も無事終了し、校内環境の整備に努めた。老朽化に伴い、施設の修繕箇所が増えていますが、今後も予算確保に努めその都度対応をしていきたい。	3.2	・PTAの方から、工事などをどんどんやっていると聞きました。ありがとうございます。

令和3年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)	未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。				
	本年度の重点目標	資質・能力の育成 「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 豊かな人間性の醸成 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 命の教育の推進 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」			評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する			
		学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期(※学校評議委員会資料として使います。)		学校関係者評価及び意見
				評価	成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)	評価	コメント	
高1学年	1 資質能力の育成	(1)基礎的生活習慣の確立 (2)基礎学力の定着 (3)高い進路目標の設定	(1) ①2分前行動の意識・実践 ②挨拶・服装容儀を整える意識・相互確認 ③規範意識の向上 ④耕心を目標とした清掃への取組 (2) ①授業で勝負の意識 ②課題の意義の理解・真剣な取組 (3) ①幅広い職業観の構築 ②進路目標に応じた適切な文理選択	(1) ①授業や課外等の時間前行動を促す。 ②学級役員などリーダーを中心に動くような声かけをし、場面に応じた動きを意識させる。 ③学年団が丸一となって常時指導を行う。 (2) ①授業の充実を図る。 ②提出物の徹底を図る。 ③各種テストに全力で取り組ませる。 (3) ①各種講演会・面談等の効果的な活用を図る。	3	(1) ①●遅刻する生徒が固定化している。(7:30登校/8:20登校) ②○学級役員など、各役職の生徒が様々な場面で積極的に動く姿が見受けられた。 ③●名札や清掃時の上着について指導を受ける生徒が固定化している。継続指導が必要。 (2) ②●提出が悪い生徒が固定化している。根気強い指導が必要。 ①③○授業で勝負～授業でのIT機器の活用が増えた。 ○日々の取り組み(課題など)とテストの結果がリンクできるようになってきた。 春休みで歩みを止めないよう、引き続きサポートしたい。 ●西高生活に慣れてきて、緩みが出ている。(課題・授業・テストへの取り組みなど) 根気強い声掛けや指導が必要。 (3) ①○様々な講演会・学習会・オンライン講座の機会があり、進路を考える良い刺激となった。 ②○2者・3者面談・家庭訪問等を適宜行い、生徒や保護者との情報共有・コミュニケーションがとれた。 ●HRT・教科担任で協力して面談・目線合わせをし、2年生への準備をさせたい。	3.0	
	2 豊かな人間性の醸成	(1)思いやる力・想像力の育成 (2)挑戦する心の育成 (3)自己管理能力の育成 (4)交通安全マナーの確立	(1) ①協働体験(学校行事・徳x活動等への参加) ②ボランティア活動への参加 (2) ①部活動等への参加 ②各種検定・資格・コンクールへの挑戦 (3) ①スマホ・SNSの適切な使用 (4) ①交通マナーを意識した行動	(1)(2) ①積極的に情報発信をする。 ②コーチングブック・STEAM Book・面談を活用する。 ③文武両道を促進する。 ④部顧問と連携を図る。 (3) ①スマホ・SNSの適切な使い方を指導する。 ②コーチングブック・面談を活用する。 ③家庭と連携を図る。 (4) ①交通委員を中心として相互に声かけをさせ、SHR等を活用する。	2	(1)(2) ①学級通信等の定期的な配付による情報発信に努めた。 ②○コーチングブック、STEAMBook、面談等の活用を積極的に行い、生徒の状況把握・コミュニケーションがとれた。 ③④○●学校行事への運営に積極的に関わる姿が見受けられた。部活動への参加も積極的だが、文武両道が厳しくなっている生徒もいる。部顧問・家庭との連携を今後とも続けていきたい。 (3) ①○●スマホの使用・SNSのマナー・時間コントロールができていない生徒がいる。1人1台のタブレットも本格運用し始めたことも含めて、適切なマナーの確認をすともにも、継続的な声かけが必要。 (4) ①●お互いの声掛けが不十分(苦情が絶えない)。交通マナーも継続指導が必要(特に朝課外のない時)。	2.4	・学年全体としてだけでなく、個々の生徒の状況についても細かく見ておられることが伝わってきます。集団として指導・支援したほうが良いこと/良い場面と、個別に指導・支援した方が良いこと/良い場面をうまく使い分けていけると良いと思います(簡単ではありませんが)。
	3 命の教育の推進	(1)命を大切にす姿勢の育成 (2)自己肯定感の育成	(1) ①LHRの有効活用(人権教育・性教育など) ②感染症対策の徹底 ③学習環境の整備・充実 (2) ①安心・安全な学習環境 ②特性のある生徒への配慮・支援	(1)(2) ①HR内外での日常的な指導を行う。 ②学校(クラス・部活動等)・家庭との連携を図る。 ③教育相談体制・特別支援体制の充実を図る。(アンケート・外部機関との協働等) ④コーチングブック・面談等の活用を図る。 ⑤教室の整備・充実を図る。	3	(1)(2) ①⑤○●感染症予防対策をする中で命の大切さや感謝の気持ちが高まった。マスク着用・換気・消毒等も自分たちで声を掛け合って徹底できた。一方、集団生活する上での周りへの配慮ができない生徒も若干いる～当たり前のレベルの向上が必要。 ②④○●いろいろな事情の生徒に対し、学校・部顧問・保護者が連携して情報を共有し寄り添った指導に努めた。(生徒同士も互いに寄り添う姿が見られた)まだ、改善に時間のかかる生徒もいるが、根気強く指導をしていきたい。 ③●特性のある生徒・様々な事情から自己肯定感を育むことが困難な生徒がいる。彼らへの配慮・支援に関して、継続して外部機関とも連携し、気長く、多面的に関わっていく必要がある。OSCや相談部のサポートのお陰で、多面的に生徒を支援できた。	3.0	
高2学年	1 資質能力の育成	(1)主体的に授業に取り組む。そのためにも授業を受ける心構え、日々の生活や教室環境を整える。 (2)進路目標をより具体的に、高く設定できるようにする。 (3)基礎学力の定着と、自ら探究する姿勢を確立させる。	(1) ①定められた時刻に着席ができていないか。 ②服装容儀面での指導を受ける生徒の減少 ③教室内の環境が整えられているか。 (2) ①進路目標が設定されているか。 (3) ①日々の課題や長期休業中の課題が提出されているか。	(1) ①クラス委員等を通じて教室環境の整備や、授業前のあいさつの徹底、また読書活動や黙想指導などの徹底を呼びかける。 (2) ①模試やチャレンジテストの意義を理解させるために、事前指導や事後指導についてワークシートなどを用いて徹底する。 ②学習会や土曜講座などについて、外部講師を招聘するなど、充実を図る。 (3) ①課題未提出者への指導・支援を徹底する。	3	(1) ①○●継続的な呼びかけができなかった。一日のリズムを確立できない生徒が見られた。クラスの係を通じて教室内の環境整備の呼びかけができた。よく挨拶をする生徒が増えた。服装容儀指導で再指導を受ける生徒が増えた。校則を守る意識の醸成が課題。 (2) ①○模試前のLHR等を利用し実施 ②○外部講師の講演動画を各クラスに配信し、模擬試験に取り組む意識を高めた。 (3) ①○課題未提出者に対して、一定期間のみではあったが放課後の時間を利用し支援を行った。●年間の学力検討会などにおいて前向きな取り組みを検討したが、結果となってあらわれなかった。生徒が自ら前向きに学習に取り組んでいけるような仕掛け、取り組みを今後も研究していきたい。	3.0	
	2 豊かな人間性の醸成	(1)学校行事への積極的参加 (2)クラス内組織や委員会の活性化 (3)スマートフォン利用のマナー強化 (4)自己肯定感を高め、他者を尊重する態度を育成する。 (5)学校の中心学年として、後輩の模範となるような学校生活を送る。	(1)・(2) ①学校行事に積極的に参加できたか。 (3) ①スマートフォン利用におけるトラブルが無いか。また学校における利用規則が守られているか。 (4)・(5) ①学校行事や部活動において、後輩を適切に支援できたか。	(1)・(2) ①クラスにおける目標設定を行い、それを通して集団への帰属意識を高める。 (3) ①クラス委員を通じてスマートフォンの適切な利用を啓発する。 (4)・(5) ①コーチングブックや個別面談を通じて、生徒の悩みなどを把握し、人間関係のトラブルを未然に防ぐようにする。	3	(1)(2) ①○朝陽際への取り組みを中心に、積極的な参加が見られた。制約が多かった中でも高い意識で行事参加ができてきたと感じる。修学旅行では生徒がそれぞれの役割を責任を持って果たすことが出来た。●一方で一部の生徒は時間を守ることが出来なかった。行事を通して帰属意識、連帯感が強まったと感じた。 (3) ①●ルールを守ることが出来ずに指導される場面が見られた。依然としてトラブルが生じているので、粘り強く啓発していく必要がある。学校での指導では限界がある。保護者の責任の下、使い方を共有し利用していく必要がある。 (4)(5) ①○学年会等において情報共有することができた。人間関係のトラブルに対して組織的に対応することが出来た。●年間を通して部活動が少なかった。また多くの大会やコンテストが中止及び延期され、学習活動以外での生徒の活動の場が制約されたことによるストレスなど、例年とは違う状況においてどのように生徒の人間性を育てていくのか、工夫が必要である。	3.0	・個別対応が必要なケースが増えているような印象を受けました。裏返せば、それだけ先生方が個々の生徒を細かく見ておられる表れでもあるのかと思います。時には、「逃避する権利」を生徒が主体的に(合理的に)行使するといった場面も必要なのかもしれません
	3 命の教育の推進	(1)人権、道徳教育を推進し、他者を尊重できる態度を育成する。 (2)生徒の特性に配慮した個別支援を充実させる。	(1) ①いじめやクラス内におけるトラブルの減少 (2) ①個別支援計画の作成	(1) ①コーチングブックや個別面談を通じて、生徒間の人間関係を把握する。 ②学校行事や部活動を通して自己肯定感を高める。 (2) ①人権教育、主権者教育の実施。 ②通級指導員やスクールカウンセラーと連携し、適切な個別支援計画を作成する。	3	(1) ①●情報を共有し組織的に指導することが出来たが、一方で集団に馴染めない生徒への指導が難しかった。 ②○朝陽際を中心に、中心学年としての積極的な参加が見られた。また修学旅行ではそれぞれの役割を果たすことが出来た。●一方で部活動の時間が例年より少なく、学習活動以外での自己肯定感を高める活動があまり出来なかった。 (2) ①○LHRにて実施済み。成人年齢が18歳に引き下げられることについての主権者教育を実施、主体的に取り組むことができた。 ②○支援が必要な生徒に対して、1学期に作成した計画案を実行中。前向きに取り組んでいる様子を見ることが出来た。	3.0	

